

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4070703667		
法人名	有限会社 精祥		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	〒807-0821 福岡県北九州市八幡西区陣原3丁目25-1 TEL 093-621-1002		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果確定日	平成23年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年10月05日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・2ユニット合同のレクリエーション・起立訓練・音楽療法(月1回百瀬ミュージック主催・ボランティア)職員参加 地域との連携及び交流
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「のぞみ」は、JR陣の原駅近くの国道3号線から少し入った利便性の良い場所に、有料老人ホーム併設で、3階建てビルの1階にあるグループホームである。法人理念とホーム方針を掲示し、職員は毎朝唱和し、利用者一人ひとりの目線で取り組む介護サービスは、充実した内容になっている。利用者職員は家族のような関係を築き、幼稚園の運動会、地域の歩こう会、清掃、防火訓練、祭り等に参加し、ホーム行事には地域住民の沢山の参加があり、開設6年目を迎え活発な交流が始まっている。また、利用者の身体機能維持を目指し、音楽療法、起立訓練、排泄の自立支援に向けた取り組み等、日々の地道な取り組みが少しずつ成果に結び付き、家族の喜びに繋がっている。また、家族会を設立し、家族の悩み、心配事、要望に応える体制を確立し、信頼関係を構築している。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①利用者の尊厳と人間性を尊重する②利用者職員が共に育ち合う環境を作る③地域社会と密着した施設を作る④利用者の満足を喜びとし常にサービスの向上を目指す法人全体の理念として掲げている。さらにホームの方針として、利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。利用者の心身の特性を踏まえ、おのおのが役割を持って家庭的な環境の中で日常生活を過ごすことができる様に配慮する。利用者が心身の痛みを緩和し「心の癒し」「生活に満足できる」ように導きますという理念を掲げている。	一人ひとりの人格を尊重し、利用者の立場にたち、家庭的な環境の中で、癒しを感じながら満足な生活が送れるよう支援することを、事業所独自の方針として掲げ、職員は、理念を唱和することで理解を深め、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、盆踊りやお祭りに参加し、事業所で行うお祭りに地域の方を招待したり、幼稚園の訪問を受け入れている。事業所主催のお祭りには、地域のお店にお願いして、出店していただいた。また年2回地域の清掃活動に利用者も職員と一緒に参加して地域の人々との交流に努めている。	地域の行事や清掃活動、幼稚園の運動会などに積極的に参加している。事業所主催のお祭りは、ボランティアの協力で、バナナの叩き売り、和太鼓演奏など、盛大に行われ、家族、地域の方で賑わうなど、活発な地域交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居・介護相談などについてはパンフレットなど置きいつでも相談に応じるようにしている。また運営推進会議の中でも地域の皆様のお役に立つことはないか声をかけている(災害時の避難場所を提供する。)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・自治副会長・地域包括支援センターの職員・民生委員・家族会会長、2ヶ月に1回開催している。地域のお祭り参加のお礼、活動状況の報告や認知症の種類と傾向についての説明、地域との交流促進の為の行事参加依頼など話し合っている。ホームのレク、行事、地域の行事など写真に収め会議の中などで披露している。個人アルバムを作成し写真をアルバムに収めている	会議は、家族代表、地域代表、民生委員、行政職員の参加で2ヶ月毎に開催されている。各委員から、情報、意見、疑問などが出され、ホームからは現況、予定、課題などを報告し、活発で充実した会議になっている。出された意見の中から、地域防災協定について前向きに進めることができた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題行動(暴言、暴力)が見られる入居者様の相談など包括支援センターに相談している。のぞみ夏祭りにおいては、ボランティアの依頼の相談など行なっている。介護サービス相談員の受け入れを行いサービスの向上に取り組んでいる。	管理者は、行政窓口や包括支援センターに出向き、相談を行うなど、連絡を密に取っている。また、介護サービス相談員やボランティアの受け入れなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福祉用具(センサーマット・リクライニング車椅子)などを活用して拘束しない取り組みを行なっている。また月1回安全拘束廃止委員会・スタッフ会議の中で話し合っている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、内外の研修会で学ぶことで、職員は、利用者を与える拘束の弊害を理解し、身体拘束のないケアの実践に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる行為がみられた時は、個別に面談など行い注意を促し虐待をしないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はおられない。市町村の研修に参加し研修後スタッフ会の中で内部研修など行なった。地域権利擁護事業・成年後見制度に関するパンフレットをホームに備え付けている。入居時に必要性がある方には説明している。	制度に関する資料やパンフレットを用意している。職員は研修を受講し、理解して、利用者や家族に説明し、いつでも制度を活用できるよう準備をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に臨時の会議を開催し、家族等の不安や疑問にお答えし、理解・納得していただけるように図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が職員に意見・不満・苦情等を率直に言っていただけの意見箱を設置したり、意見・要望を書いて返送していただく用紙を郵送したりしている。面会時に管理者が毎回声かけしたり、運営推進会議に家族会の会長に参加していただき、出された意見や苦情は記録に残し会議で報告し対応策を職員も含めて話し合っている。	定期的に家族会を開催し、意見や要望を出してもらい、出された意見を出来るだけ運営に反映できるよう工夫をしている。また、家族来訪時、行事参加や電話等で、利用者の近況を報告し、今後の方針を話し合い、共有している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会を行い問題があれば、意見交換している。また、特定施設と合同で会議を開催して意見交換・情報交換・ケアの改善などの機会を設けている。	毎月定期的に職員会議を開き、議長、書記を職員が順番に努め、意見を出し易い雰囲気の中で、多くの意見や要望を聴き取り、それを出来るだけ介護サービスに反映させる努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成の前にはあらかじめ希望休など聞き極力職員の生活状況と希望に応えられるようにしている。また病氣、冠婚葬祭など急な変更にも対応できるように勤務の調整に努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。職員についてもレベルアップできるように外部研修・資格研修など参加していただくように配慮している。	職員の採用は、性別、年齢の制限はなく、人間性ややる気を重視している。研修、資格取得を積極的に支援し、職員一人ひとりが意欲を持って働ける環境整備に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	基本理念にもとづいた人権教育を、全体ミーティングや朝礼、夕礼時、折にふれ実施中	管理者は、利用者の人格を尊重するための人権研修に参加し、内部研修で周知徹底し、利用者の人権尊重と啓発活動に繋げる取り組みがある。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講する職員に対しては受講費用は全額施設が負担している。また、受講してきた職員は内部研修として、他の職員へ伝達研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のまつり時は、地域会議に参加して、出品作について話し合ったりしている。また、同グループホーム（はまゆう、やまぶき）との定期的な会議、勉強会を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を何度か行い顔馴染みの関係を作り体験入居も行なっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対しても充分説明を行い納得されるまでご相談を受け止める努力をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況を見極め、ご本人、家族の希望などサービスの必要性があれば利用できるように支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設見学や体験入居をしていただき、職員や他の利用者、場の雰囲気など体験して検討して頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限りご本人の希望にそえるよう、家族と共に連携、協力して、ご本人を支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺のお坊さんが、今も月に一度お経をあげに来たり、以前住んでいた近所の方が面会に来たりと、一人ひとりの思い出を大切に、ご希望に応じて支援している。	利用者の馴染みのお寺から、お経をあげに来てもらっている。また、行きたい場所を聞き取り、デパートに買い物に行ったり、知人、友人の来訪があるなど、管理者と職員は、利用者の昔からの馴染みの関係の継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格など職員が把握し、どのご利用者もよい関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、ご家族様が遠方にいる為、身の回りの世話をしたり、また亡くなられた方については、葬儀、初盆に行くなどして、これまでの関係が保てるよう努めている。また相談なども受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅へ帰るとの思いが強い方には、散歩やドライブ、家族との外出など行い、ご本人の思いや意向に答えられるよう努めている。	職員は、利用者の思いや意向を把握するために、時間をかけて話しをしたり表情や独り言から読み取る努力をしている。利用者が今したいこと、食べたい物など、思いや意向を把握し、利用者が少しでも満足できるように、支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族から聞き取りを行いアセスメントシートを作成し職員間で共有できるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お手伝い(おしぼり巻き、食器拭き)や会話等を通して、心身状態を見極めながら支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状態変化、退院時、ご家族の希望などが生じた時は必要な関係者と話し合い介護計画の見直しを行っている。	利用者、家族の要望を聴きながら、3ヶ月毎に関係者で話し合い、介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族と連絡を取りながらその都度、介護計画の見直しを行い対応している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を明確に記録している。また課題表を作成し情報の共有や介護計画の見直しを行なっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在、ほとんどないが、以前は知り合いの方のお見舞いに同行したりしていた。今後は、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防火・災害訓練参加や特定施設・GH合同防災訓練など行なっている。また音楽療法ボランティア(月1回)に来ていただいて、楽しい時間を過ごしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人家族の希望を優先している。時に意向がない場合は、GH提携医と24時間体制の連携がとれている。	利用者や家族の入居前のかかりつけ医を最優先し、受診の支援をしている。また、緊急時の医療連携や、併設施設から看護師の応援を得るなど、医療、介護の連携により、安心した暮らしを支えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者をよく知る看護職員が日常の健康管理や職員からの相談など行なっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談にも努め、病状把握を行なっている。またご家族と連絡、面会などを行い、ご本人が安心して過ごせるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合いの場を持っている。必要によっては、主治医と話し合いを行い、スタッフ全員で方針を共有している。	看取りの指針を作成し、利用者や家族と話し合いを重ね、医師や関係者も参加し、利用者の重度化に向けた方針を共有できる体制がある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に備え、すべての職員が、応急手当や初期対応できるように訓練を定期的に行なっている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の避難訓練や地域の防災訓練などに参加。また運営推進会議で議題にあげ地域の協力が得られるように連携している。	消防署の指導のもと、昼夜を想定し、地域住民の協力を得ながら避難訓練を実施している。	非常災害時に、電気、水道、ガスが使用不可の場合の非常食を準備することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時、居室へ入室する場合など、プライバシーを損ねないように声かけを行なっている。	職員は、利用者のこれまで培ってきた経験と人生の先輩であるという認識の下、常に敬う気持ちで接している。また、個人情報の記録は人目に触れない場所に保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの力に合わせた働きかけを行いご自分で決定できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態に合わせて、散歩したり、家事活動をしたり、歌を歌ったりと希望に添った支援をしているが、危険が伴ったり、トラブルのもとになる場合は希望に添えないこともある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マニキュア・身だしなみの支援。2ヶ所から美容師が定期的にホームに来られ、ご本人、ご家族の希望にあわせパーマ・カット・毛染め・顔そりなど行なっています。またご本人・ご家族が施設外希望するところがあれば支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・買い物・盛り付け・後かたづけ(お茶碗・テーブル・モップ拭き)無理強いせず、できる範囲でスタッフと共におこなって頂いている。	食事は、料理上手の職員が利用者の健康を考えながら心をこめて作り、利用者と職員は同じテーブルを囲み、会話をしながらの楽しい食事風景である。また、梅干、漬物などを手作りするなど、食事が楽しいものになるよう工夫している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を確認し記録している。必要な水分量が確保できるよう、毎食・午前・オヤツ時・夜間・入浴後・その他希望時、飲料を提供させて頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔支援をしている。ご自分でできない方は介助にて行なっている。口腔内に問題などあればご家族に相談し歯科の往診を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導している。	日中は、ほとんどの利用者がおむつ無しで過ごし、トイレでの排泄を実施している。また、夜間も出来るだけトイレで排泄できるよう、職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングをみて誘導するなど、細やかな支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分管理(水分チェック表)・排尿、排便管理(チェック表)食事量、体調などに気をつけ予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調とタイミングに合わせて入浴して頂いている。ご自分で行なえる部分は、ご自分でしていただき、できない部分は介助している。	入浴は、基本的に週3回であるが、利用者の健康状態に合わせて変更したり、清拭、足浴を行うなど、柔軟に対応している。また、入浴を拒否される方に対しては、担当職員を代えたり、タイミングをずらしたりしながら入浴してもらえるよう工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにあった安心して入眠できるように支援している。中途覚醒、不眠時はフロアにてスタッフと共にお茶など飲んで過ごして頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者別の薬ファイルがあり、変更などあれば連絡ノートなど確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭・居室掃除や洗濯後の衣類干し・取り入れ・衣類たたみなどスタッフと共に行い一人ひとりの力を活かした支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に合わせて、散歩や買い物に行ったり、計画を立ててドライブなど支援している。また、ご家族やご本人からの希望があれば対応している。	毎週木曜日、リフトバスで外出する機会を作り、外出を楽しんでいる。また、日常的な散歩、買い物など、天気の良い日は利用者が出来るだけ戸外で過ごせるよう外出の支援をしている。また、管理者、職員は、利用者の喜ぶ顔が見たいという思いから、家族と相談し、利用者の行きたい所を聴き出し同伴するなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり力に応じて、またご本人の希望があれば、ご家族に相談して所持して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を居室に取り付けている方(2名)。また誕生日は写真とご本人直筆メッセージを書いていただきご家族に送って入る。書けない方は担当スタッフが支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があり季節を感じられるように花など植え込んでいる。常に清潔に配慮し居心地よく過ごせるような工夫などしている。(日差しの強い日はよしずなど利用している)	3階建ての有料老人ホーム併設の1階部分に位置し、ビルの中のグループホームではあるが、室内は季節を感じ取られる花や小物が飾られ、掃除が行き届き清潔で、中庭からの採光で明るく、バリアフリーも施され、安全で安心して暮らせるホームである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにおいて談笑できる場所を提供したり、ご本人の思いを尊重した支援をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具(タンス、仏壇、椅子、テーブル)や好みのもの(茶碗、お箸)などを活かして生活している。	居室は、利用者の自宅と出来るだけ違和感のない環境に近づけるため、利用者が長年親しんだ馴染みの家具や小物を、家族の協力で持ち込んでもらい、居心地のよい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるように張り紙をしたり、床にある物を排除し環境整備を行い、安全に生活がおくれるように工夫をしている。		